

MTT035-P04

会場:コンベンションホール

時間: 5月24日17:15-18:45

1944年12月撮影空中写真による渥美半島中部の斜面崩壊判読

Interpretation of landslides in Atsumi Peninsular, Japan using aerial photographs taken in Dec 1944

佐藤 浩^{1*}, 神谷 泉¹, 中埜 貴元¹, 小荒井 衛¹, 宇根 寛²

Hiroshi, P. Sato^{1*}, izumi kamiya¹, Takayuki Nakano¹, Mamoru Koarai¹, Hiroshi Une²

¹国土地理院, ²国土交通大学校

¹GSI of Japan, ²College of MLIT

1944年12月10日、偵察飛行のため渥美半島中部に飛来した米軍機は、高度約9,700mから撮影縮尺1/16,000の白黒空中写真を撮影した。浅層の斜面崩壊が多数判読されたので、本研究では、それらの分布の特徴を理解するために、崩壊分布の図化の結果をしめす。撮影日の3日前には、熊野灘から遠州灘にかけてを震源域とするM7.9の東南海地震が発生していることから、この地震によって斜面崩壊が生じた可能性がある。なお、本研究は、科学研究費補助金研究課題番号：19651077「米国公文書館所蔵の米軍撮影空中写真による東南海地震等終戦前後の災害検証手法開発」(研究代表者：名古屋大学鈴木康弘教授)の予算の一部を使って行われた。

キーワード: 1944年東南海地震, 米軍, 空中写真, 判読, 斜面崩壊

Keywords: 1944 Tonankai earthquake, U.S.Armed Forces, Aerial photographs, Interpretation, Slope failures